

にぎわい創出の拠点に

14年閉所の旧末次保育所

松江



旧末次保育所の庭を整備する委員会のメンバー

松江市城西地区の住民有志が、廃園となった旧市立末次保育所（松江市外中原町）を地域活性化の拠点施設にしようと、準備を進めている。2年以上にわたって市に働き掛け、利用許可を得たもので、昆虫の飼育や果樹の栽培に定期市の開催といった、子どもからお年寄りまでが楽しめる施設を思い描く。今春の開設を目指しており、「新たな名所に」と夢を膨らませている。（佐々木一全）

昆虫飼育や定期市 3世代活用を検討

開設
今春
目指す

旧末次保育所は、鉄骨平屋「びチャレンジ広場」。園庭での延べ床面積810平方メートル。のカブトムシ飼育や専門家を城西幼保園（同市堂形町）の招いたブルーベリー栽培、山新設に伴って2014年3月・海の幸を持ち寄った定期市に閉所し、取り壊しが検討されていた。

公民館運営協議会（立脇通也会長）が「にぎわい創出の拠点にしたい」と跡地利用を提案。地域住民も呼応し、幼保園の建設が始まった13年6月、城西地区教育環境整備実行委員会を設立し、新しい拠点施設の構想を練るとともに、活用を市に働き掛け、昨年暮れに利用許可を得た。施設のコンセプトは「城西3世代健康長寿と明日への学びたい」と意気込んだ。

実行委の井口誠副委員長（82）は「綿密な使用計画を練り、城西地区の新たな名所として親しんでもらえるようにしたい」と意気込んだ。